

新しいタイプの定時制・通信制高校の設置に向けた検討事項

I 県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会で示した検討事項

論点1 通信制サテライト校の教育体制に関すること

・・・第1回部会、第2回部会、**第3回部会（本日）**

〈基本的な考え方〉

本校（旭陵・刈谷東）を適正規模にダウンサイジングするには、できる限りサテライト校のみで学びを完結させる必要がある。

「愛知県 定時制・通信制教育アップデートプラン」におけるサテライト校の記載

区分	サテライト校（イメージ）
スクーリング	週数回通学可能、本校のみで開講する科目は本校で受講
添削指導	サテライト校でスクーリングを実施する科目について添削指導する
試験	年2回（サテライト校で受講する科目）
単位認定	本校（旭陵・刈谷東）で行う

[検討内容]

- 本校（旭陵・刈谷東）とサテライト校との面接指導（スクーリング）の実施割合
- サテライト校へ平日に登校できる校内体制の整備
- サテライト校でのスクーリングや平日の登校に対応した教職員の配置

論点2 課程間の行き来に関すること

・・・第1回部会、第2回部会、**第3回部会（本日）**

〈基本的な考え方〉

全日制（単位制）、昼間定時制（単位制）、通信制（単位制）の間の行き来については、各課程の特色ある学びを尊重しつつ、生徒が自分のペースで学べる環境をつくる必要がある。

[検討内容]

課程間の行き来を実現するためのカリキュラム構築や、単位認定のしくみなどの検討

論点3 その他・・・第3回部会（本日）

- 不登校経験者や特別な支援が必要な者などに対応した入学者選抜について
具体的な入学者選抜方法については、愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議において改めて検討。
- 市町村との連携について
- 地域との連携について

II 追加の検討事項

論点4 設置形態に関すること

・・・第1回部会、第2回部会、**第3回部会（本日）**

〈基本的な考え方〉

サテライト校について、設置形態を考える必要がある。

[検討内容]

本校（旭陵・刈谷東）の分校とするか、サテライト校を設置する高校の課程の一つとするかの検討

（参考）新しいタイプの定時制・通信制高校の設置について

（愛知県 定時制・通信制教育アップデートプランより抜粋）

1 通信制のスクーリングを行うサテライト校 と 小規模の昼間定時制・単位制 を 同じ学校内に設置（2025年4月開設）

⇒施設に余裕のある以下の高校に設置する ※地域バランスを考慮

海部	佐屋高校（愛西市）	知多	武豊高校（武豊町）
西三河	豊野高校（豊田市）	東三河	御津あおば高校（豊川市）
・現在の 全日制 を学年制から 単位制 へ改編 ・定員 通信制40人規模、昼間定時制20人程度/学年			

通信制 ⇄ 昼間定時制（単位制） ⇄ 全日制（単位制）

- ・原則、コース間の行き来を自由にし、自分のペースで学べる環境をつくる。
- ・添削指導のネット活用化、オンデマンドによる補習支援など、ICTを活用した通信制教育の充実。
- ・仮想空間「メタバース」、分身「アバター」を活用した「学びのVRネットワーク」で、人との関わりやコミュニケーションが苦手な生徒をサポート。

2 旭陵高校の通信制を適正規模へダウンサイジング

⇒通信制の**本校**に通学する生徒：320人/学年→2025年280人→最終的に240人へ

3 刈谷東高校の昼間定時制・通信制を適正規模へダウンサイジング

⇒昼間定時制：5学級/学年 → 2025年4月4学級 → 最終的に2～3学級へ

通信制の**本校**に通学する生徒：200人/学年→2025年160人→最終的に120人へ

4 相談・就労支援体制の充実

⇒スクールカウンセラーやキャリア教育コーディネーターなどの常駐化を検討

第2回部会及びワーキンググループにおける主な意見

論点	第2回部会	ワーキンググループ
論点1 通信制サテライト校の教育体制に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学校を円滑に運営するために、必要な教職員数について見直しをもって人数を配置すべきである。 ・設置校の4校（佐屋・武豊・豊野・御津あおば）には、開校の前年度から、開校準備員として通信制や定時制のノウハウをもつ教職員を配置する必要がある。 ・全日制・定時制・通信制の教職員が協力して学校を運営していくためには、一部の課程に負担が偏らないようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全日制・定時制の生徒が通信制を併修しやすくするためには、平日だけではなく、日曜日にもスクーリングを実施することを検討する必要がある。 ・できるだけ学校に通いたいという通信制の生徒のために、スクーリングの日とは別に、学校に来て学べる場を作ることが望ましい。
論点2 課程間の行き来に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・全日制・定時制・通信制の課程間を移動できることは、不登校を経験した生徒や日本語能力に不安のある生徒、進路希望が定まらない生徒にとって非常に魅力的であり、学校の特色となる。 ・定時制の生徒が通信制や全日制の授業を併修（同時に履修）しやすくすることは、3年間での卒業を目指そうとする生徒のニーズが高い。 ・不登校を経験した生徒は、環境の変化に適応することが難しい場合が多く、他の課程との併修を行う際の時間帯や教室についての配慮も必要となる。 ・多様な生徒の学習ニーズに対応するには、1年単位だけではなく、半期で単位を認定する仕組みについても検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課程間の行き来をしやすくするためには、全日制・定時制・通信制の科目を揃え、授業時間帯を3課程同じにするとよい。 ・個々の生徒のニーズに応じて、併修や転籍ができることは大切であるが、全日制・定時制・通信制の特色も大事にする必要がある。
論点4 設置形態に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・設置校の4校が、それぞれ旭陵高校と刈谷東高校からノウハウを学び、良い点を取り入れられるよう、協力体制を作る必要がある。 ・前例のない新しいタイプの高校であるため、開校後も旭陵高校と刈谷東高校だけでなく、県教育委員会からの支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの形態が違う全日制・定時制・通信制を一体的に運用するためには、3課程の教員の勤務時間帯を揃えるなど、さまざまな工夫が必要である。

論点 1 通信制サテライト校の教育体制に関すること

(前回と同じ)

- 設置校で学校生活が完結する教育体制とし、他課程の生徒と同様に、平日に登校することを原則とする。
 - ・スクーリングは、全て設置校において実施する。
 - ・平日に登校できる校内体制を整え、平日のスクーリングを実施する。
 - ・通信制での勤務経験のある教職員を配置する。

論点 2 課程間の行き来に関すること (前回と同じ)

- 各課程の生徒が、在籍する課程に関わらず、併修により学びたい科目を受講できるようにする。
- 生徒の事情に応じて、他の課程に転籍できるようにする。
なお、転籍の取扱いについては、次のとおりとする。
 - ・受け入れ可能人数は、学校の裁量とする。
 - ・転籍の回数及び時期は、生徒の希望を踏まえて校長が判断する。

論点 3 その他 (今回検討)

- 1 不登校経験者や特別な支援が必要な者などに対応した入学者選抜について
- 2 市町村との連携について
 - 多様な学習ニーズをもつ生徒が通うこととなるため、市町村教育委員会や各中学校との連携を密にする。
- 3 地域との連携について
 - ボランティアや就業体験など、地域の企業や団体と協力して行う学校外の活動について、単位認定することを検討する。

論点 4 設置形態に関すること (前回と同じ)

- 通信制は分校ではなく、設置校の課程の一つとする。
 - ・組織面では、旭陵・刈谷東のサテライトではないものの、機能面では、サテライトとしてこの2校を中心とするグループを構築し、各グループにおいて、カリキュラムや教材の作成、添削及び面接指導、評価等の具体的な検討を進める。
 - ◎旭 陵グループ …… 旭陵・佐屋・武豊
 - ◎刈谷東グループ …… 刈谷東・豊野・御津あおば